

## 2 教科部会（国語）

### 1 小学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成26年4月実施 4・5年生）

#### （1）学習状況調査の結果【下野市と県平均との比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

##### ① 国語の全体的傾向（観点別正答率）

###### 4年生

	全体正答率	基礎基本	思考・判断・表現	話すこと 聞くこと	書く	読む	言語
比較	○	○	○	－	○	○	○

###### 5年生

	全体正答率	基礎基本	思考・判断・表現	話すこと 聞くこと	書く	読む	言語
比較	○	○	◎	○	◎	○	○

#### <考察>

4・5年生ともに県平均を上回る正答率となった。観点別にみると、5年生は、「書くこと」が県平均を大きく上回っている。しかし、「読む」や「言語」の観点は、県平均を上回っているものの、正答率は60%には到達していない。4年生でも、「書くこと」が他の観点と比べると、県平均よりもややよい結果がでていいる。また、「読む」では、5年生同様に正答率が60%に達していない結果となった。

本年度から新たに加わった「基礎基本」「思考・判断・表現」では、どちらも県平均を上回っているが、「思考・判断・表現」で県との平均の差が大きかった。

今後、「読む」領域において、物語の場面の様子を叙述をもとにして正しく読む力を育てる指導が必要と考えられる。さらに、5年生では、段落相互の関係に気をつけて文章を読んでいく力を育てていくことも必要であろう。

#### （2）設問別分析 改善策・対策

各学年において達成率の低かった問題、それらに対する改善策・対策は以下の通りである。

###### 4年生

観点別にみると「読む」と「言語」の平均正答率が60%に満たなかった。「読み」の問題では、物語の場面の様子を叙述を基にして読むことができなかった。漢字の読みや書きでは、県平均を大きく下回る問題があった。反対の言葉やローマ字の書き方でも、正答率が60%に届

かず、十分に身に付いていないと考えられる。「書く」ことにおいては、招待する手紙を書く設問で、無回答が一割ほどみられた。また、聞き取りの設問の選択問題では90%以上できていた。

#### 設問5 読むこと 物語

文章中の\_\_\_\_\_を引いた部分ア～エのうちほかの3つとはちがうものを一つ選んで、その記号を書きましょう。

ア たらいみたいなもの

(本市選択率：11.2% 県選択率：11.1%)

イ 赤ちゃんのときに使ってたおふろ

(本市選択率：21.5% 県選択率：18.1%)

ウ 島にするレンガ

(本市正答率：33.1% 県正答率：32.2%)

エ 友達つきの池

(本市選択率：21.5% 県選択率：24.1%)

#### <考察>

同じ物をちがう表現の仕方と言い換えられた内容を読み取ることができなかったと思われる。また、日常の生活の中で「たらい」や「レンガ」などの言葉を聞くことがあまりなくなったことも影響していると考えられる。そのため、知っている言葉の記号を選ぶ傾向があったのではないだろうか。教科指導だけでなく、日常の生活の中でも、いろいろな表現の仕方を書いて話したりさせることが、児童の語彙を豊富にし、豊かな読みにつながるであろう。

#### 設問2-(1) 漢字の読み

・次の\_\_\_\_\_を引いた漢字の読み方を、ひらがなで書きましょう。

② ケーキを平等にわけろ。

(本市正答率：26.9% 県正答率：37.9%)

#### 設問3-(2) ローマ字の書き

・ひらがなが正しくローマ字に直されている物を、次の1～4から1つ選んで、その番号を書きましょう。

2 らくだ → rakuba

(本市選択率：18.6% 県選択率：19.6%)

#### <考察>

ローマ字の読み書きについては、にているアルファベットの区別をきちんと指導する必要がある。また、ローマ字表の母音と子音を正しく覚えさせ、ローマ字日記やパソコン入力などで意図的に使う場面を作り、日常化を図りたい。

一番最後の設問で無回答が多かったことについては、時間配分の調整ができるように適宜、残り時間を知らせていくようにしたい。

## 5年生

4年生同様、5年生でも「読む」の平均正答率が60%に届いていない。言語領域もやや落ちているようにみられる。場面の様子を叙述をもとにして読むことができていなかった。漢字の読みは正答率が90%を超えるものもあるが、漢字の書きでは3問すべて、正答率が低かった。「書く」ことでは、意見文を書く設問であったが、自分の意見を明確にして書くことがよくできていた。

### 設問5-(2) 読むこと（物語の内容理解）

・次の文章を読んで、下の問題に答えましょう。

(2) 和希と二組のアンカーの位置関係を、～。1～4から1つ選んで、その番号を書きましよう。(図省略)

1：スタート・ゴールの位置

(本市選択率：8.6% 県選択率：10.0%)

2：1/4の位置

(本市正答率：37.4% 県正答率：34.5%)

3：半周まで15メートルの位置

(本市選択率：35.9% 県選択率：38.8%)

4：3/4の位置

(本市選択率：16.2% 県選択率：13.6%)

### <考察>

この部分の文章は、主語が書かれていないが、文脈から和希と二組のアンカーの位置関係を読み取らなければならない。しかし、児童は、具体的な数字を頼りに読み取っているため、正しく読み取れなかったと思われる。だから、主語と述語の関係を整理しながら読む力を育てていくことが必要と思われる。書かれている内容から、省略されている内容を想像しながら読めるようにしたい。

### 設問2-(3) 漢字の書き

・次の問題に答えましょう。

(2) 次の\_\_\_\_\_を引いたひらがなを、漢字に直して書きましよう。

①運動場にせいれつする。

(本市正答率：29.4% 県正答率：30.6%)

②成績はりょうこうだ。

(本市正答率：11.7% 県正答率：7.6%)

③家族をやしなう。

(本市正答率：39.8% 県正答率：36.4%)

### <考察>

②は、教科書で紹介されていない熟語であった。「良」と「好」という字は、書けても、熟語として組み合わせることができなかったと思われる。③は、送りがなが正しくつけることができなかった。3問とも、繰り返し正しい字体で練習することが大切である。また、日記や作文で既習漢字を使わせていくようにしたい。

## 2 中学校国語

・対象としたテスト とちぎっ子学習状況調査（平成26年4月実施 2年生）

### (1) 学習状況調査の結果

下野市と県平均との比較

◎大きく上回っている（5ポイント以上） ○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満） ▼大きく下回っている（5ポイント以上）

#### ① 国語の全体的傾向

	国語全体	観 点 別 正 答 率			
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
比較	○	◎	○	○	－

国語全体の平均正答率を見ると、「話す・聞く能力」の領域において目標値を大幅に上回る解答状況であった。放送による聞き取りテストの形式であったが、司会者の進行と話し合いの様子を的確にとらえることができていた。

漢字の書き取りでは、ほとんど県の正答率を下回っていた。小学校から1年生までに習った漢字の復習が必要である。

### (2) 設問別分析

#### ① 「漢字の読み書き」

2－(1) ④鮮やか（読み）

2－(2) ①ボウケン（書き） ②モケイ（書き） ③ウまる（書き）

〈考察〉

「鮮やか」は、県平均が91.2%。市平均が82.9%。音と訓の混同を指導したい。「ボウケン」は、県平均が35.5%。市平均が25.4%。半数以上が誤答で、部首の混同が多かった。「モケイ」は、県平均が49.1%。市平均が32.8%。同音異字の誤答が多かった。「ウまる」は、県平均が33.0%。市平均が27.8%。無回答が56.8%だった。授業時における間違いやすい漢字の指導に力を入れる必要がある。

#### ② 6－(1) 「表現」

新聞記事と話し合いの内容を関連づけた理解

県平均45.5% 市平均47.3%

〈考察〉

この問いに答えるためには、まず記事の内容を正確にとらえ、必要な情報を読み取ることができることが条件となる。

生徒の回答を見ると、設問だけを読んで答えを導き出し、本文を確認していないふしがある。

設問を読んだ後必ず問題文を確認する習慣をつけることが大切である。また、普段から話し合いの時などには5W1Hを意識させたい。